

# 楽たま通信

平成29年度  
No. 1



## 創刊号は、あえて「花燃ゆ」のそうせい公



今日から先生方向けの職員室通信を発行することにしました。私の普段考えていること、校内の取組などをざっくばらんに綴ってみたいと思っています。どうぞ目を通してください。

題名の「楽たま通信」は、平成11年度の私の担任時代最後の学級通信の題名です。思い入れの深いこの題名を流用させてもらいました。

皆さんは、NHK大河ドラマ「女城主直虎」を見ておられますか。柴咲コウが主人公を演じ、高橋一生が存在感を示すドラマで、私も途中から欠かさず見えています。

しかし、第1号は、直虎ではなく、一昨年度に放映された「花燃ゆ」がテーマです。

花燃ゆは、全国的には低調で残念したが、私にとっては、毎回、吉田松陰の思想に係る様々な格言が出てきて、校長として大変思い入れの深いドラマでした。

格言ではありませんが、毎回のように出る「君の志は何ですか。」という言葉に、毎回、自分の生き方を問われているようでドキッとしたものです。

この言葉とともに、私の好きなシーンは、北大路欣也が演じる藩主毛利敬親が、山口

弁で「そうせい」と発する場面でした。

毛利敬親は「そうせい公」と言われるくらい、この言葉を発していたようです。家臣がどのようなことを上申しても「そうせい」と常に返事をしてきたことから、このように言われていたとのこと。敬親公は、有能な家臣を次々と登用し活躍させ藩の財政を立て直した藩主です。家臣達は「そうせい侯」のもとで、思い切った自分の意見を上申できる、古い体質にとわられない柔軟な組織体制が成功へ導いたのでしょう。



私の願う「楽しくてたまらない学校」とは、年度当初にお話ししたとおり「子ども・先生・保護者・地域の方々みんなが、自分だからこそその夢・願いを持ち、その実現に向けて前向きに取り組む 楽しくてたまらない学校」です。まさに、花燃ゆの時代の山口県に重なります。

楽しくてたまらない学校とはどんな学校か？ それを実現するための新しい方策とは？ そのアイデアを実行に移し、そしてさらに次の手を打つ。

学級で、委員会で、校務分掌で、CSの活動場面で。さらには児童会からも。次々に新しいアイデアが打ち出されていく学校。子どもたちもわくわくドキドキする学校。

「そうせい」とはおこがましくて言えませんが、その代わり「そうしい」が口癖の校長になりたいと思っています。